

花きの県別生産出荷概況(7月見通し)

令和2年6月30日現在

出典:花き流通情報連絡協議会資料

品目	県名	作型	主要品種	出荷期 期間 (ピーク)	作付面積 ha (前年比)	出荷見込み		5月のピーク(%)			主産地	作柄及び概況
						出荷総数 千本 (前年比)	京浜地域向 千本 (前年比)	上旬	中旬	下旬		
バラ	青森		サムライ アバランジェ エスタ	4~12月 (6~9月)	0.60 (100%)	217 (96%)	195 (96%)	30	30	40	JA津軽みらい	【津軽地区】 4月の夜温が低かったことから、生育は遅れ気味。 梅雨明け以降、タバコガの発生が懸念される。
	群馬	施設 (周年)	アヴァランチェ サムライ08 ほか	周年 (5~11月)	11.8 (97%)	901 (90%)	710 (95%)	33	33	33	前橋市 富岡市 昭和村	各産地生育順調であるが、一部で継続して出荷調整が行われていることや作付面積の減少により、出荷量は前年を下回る見込み。 病害虫では、一部でアザミウマ類の発生が見られるが、品質への影響はない。
アメリ リス アト ロ	青森	周年	オルガ アルーラ ピンクサプライス	周年 (5月~8月)	1.92 (100%)	1,083 (96%)	704 (96.7%)	30	30	40	JA津軽みらい JAつがる弘前	【津軽地区】 4月および5月下旬の低温から生育にばらつきが見られ、出荷量は減少した。4月に価格低迷からピンチや切り戻し作業を行った生産者もあり、6月に入ってから出荷量が増えている。
トル コ ぎ き ょう	青森		セレブ ポヤージュ ロジーナ	6月~11月 (9月)	4.95 (98%)	895 (103%)	537 (103%)	20	30	50	JAつがるにしきた JA津軽みらい JA八戸	【津軽地区】3月定植分は6月下旬から出荷開始見込み。病害虫等も散見されず、生育は順調。 【県南地区】4月の低温の影響で、草丈が短いものが散見されるが、概ね順調。例年より若干遅く、7月上旬から出荷開始見込み。
	群馬	施設 (促成)	ロジーナ ポヤージュ バルカン ほか	周年 (6~11月)	6.2 (100%)	220 (100%)	193 (100%)	30	30	40	昭和村 富岡市	現在は東部地域の2番花の出荷が盛期を迎えているが、7月以降は利根沼田地域(昭和村、沼田市)に主産地が切り替わる見込み。各産地生育は順調であり、病害虫による大きな被害はない。
	千葉	施設		4~8月 (6月) 10~12月 (11月)	6.8 (95%)	370 (80%)	280 (80%)	35	35	30	館山市、鴨川 市、南房総市 (丸山・千倉)	・ほぼ例年並みの作柄。 ・令和元年房総半島台風による施設被害の復旧が完了しておらず、7月分の植付け面積が減少しているため、出荷量は前年に比べ2割程減少する見込み。6月に引き続き多品種が出荷される見込み。6月下旬から7月上旬が出荷ピークの予定である。

花きの県別生産出荷概況(7月見通し)

令和2年6月30日現在
出典：花き流通情報連絡協議会資料

品目		販売における現状と今後の見通し	
バラ	現状	業務関係の注文、引き合いは皆無に等しく、白系などは非常に厳しい状況が続いた。唯一、父の日の需要で黄色のみ間際の引き合いがあるが、過ぎたら引き合いは非常に弱い。特に場内仲卸等の購入が少なく、販売単価は迷(大田)。山形・宮城など高冷地出荷徐々にまとまる。需要少なく厳しい販売続く(FAJ)。ブライダルや、宴会、スタンド花などの需要低迷であり、6月一週目の入学式以降は、厳しい動きとなるまた、前売りのでの販売も厳しい状況でセリ販売率が高い(第一花き)。ブライダル・葬儀ともに動きが無く、小売店も引き合い弱く、厳しい相場(世田谷)。東北産地と西南産地の出荷が重なり潤沢な入荷量となっているがイベント自粛・縮小で業務需要が不振で厳しい販売展開となっている(東日本板橋花き)。	
	見通し	大田花き	大きな需要も無く、月の後半から輸入が入ってくる為、西南暖地などのボリューム不足の商品は非常に厳しい取引が続くと思われる。コロナウィルスの影響は大きく、宴会や業務需要は皆無。
		FAJ	引き続き高冷地主体の入荷。西南暖地出荷落ち着き全体数は量平年並みに。
		第一花き	主だったイベント後はなく、気温の上昇に伴い、必要な本数しか仕入できない状況となりそうである。秋になればブライダルに関しても行われる話もあるが、7月も厳しいであろう。
		世田谷花き	高冷地産中心に潤沢。上位等級の引合が強い見込み。
		東日本板橋花き	主産地は山形県、新潟県の東北産地の入荷となってくる。販売面は引き続き小売り中心となる見込みだが高温期に入り需要が落ちてくるため販売は厳しいか。
		東京フラワーポート	
アルストロメリア	現状	業務の引き合い弱い、暖地・高冷地の数量が纏まり、中旬まで低単価での取引となった。徐々に専門店の使用頻度も減少。中旬以降、暖地の数量が落ち着き、業務中心の引き合いとなり、中値での取引となった(大田)。長野・山形より入荷。出荷数量はほぼ昨年並みにまで回復。平年通りの価格帯での取引続く(FAJ)。愛知・長野・山形中心に多い状況である。品質や日持ちからみてそれなりの販売で推移(第一花き)。北海道産微増で、全体量は減少。業務中心の動き(世田谷)。愛知・青森中心の入荷。昨年より若干少ない入荷(東日本板橋花き)。	
	見通し	大田花き	暖地は数量減少、北海道中心の数量となる。業務需要中心に白・ピンク系の引き合い中心となる。
		FAJ	引き続き、長野・山形主体の入荷。需要は葬儀中心に。
		第一花き	長野及び他の高冷地の入荷。多品目が少ない状況でそれなりに販売しやすい状況であり、品質が良ければ動きは良いと思う。
		世田谷花き	入荷更に減る見込み。
		東日本板橋花き	愛知・青森・北海道中心の入荷。昨年並みの出荷量の予定だが、天候次第で増減あり。
		東京フラワーポート	
トルコギキョウ	現状	福島、千葉、茨城が増加傾向、熊本、愛知、静岡の2番花が増加した。入荷量は各色潤沢で、低調な相場展開となった(大田)。山形・福島・長野など高冷地出荷徐々にまとまる目立った需要なくやや苦戦した販売(FAJ)。4月の気象状況や、相場であろうか、暖地物から高冷地物まであふれてきている。その中でも、業務品種の動きが悪い(第一花き)。ほぼ作付け計画通り、各地から入荷するも、宴会需要少なく、低調(世田谷)。西南暖地・北関東産の2番花が順調入荷。昨年よりやや多い入荷量(東日本板橋花き)。	
	見通し	大田花き	上旬は千葉がピークとなり、中旬は福島が数量が纏まってくる。中旬以降、長野が順次出荷が始まる見込み。
		FAJ	東北・長野などより出荷継続。新盆にむけて前半やや紫系は動き有。
		第一花き	高冷地物中心に増加傾向となる。高値はないが中値で推移しそうである。
		世田谷花き	長野・福島・山形県などから入荷。潤沢ではあるが、需要の回復見込めず、引き合い弱い。
		東日本板橋花き	安房・東北産中心の入荷。昨年並みの入荷量。
		東京フラワーポート	

花きの県別生産出荷概況(7月見通し)

令和2年6月30日現在
出典：花き流通情報連絡協議会資料

品目		販売における現状と今後の見通し		
りんどう	現状	岩手は例年と比べて1週間ほど早くスタート。栃木は中旬から下旬にかけて増加傾向。山口はエア一便減便の為、今期出荷の見通し立たず。引き合いは徐々に量販店中心に高まった(大田)。現在は栃木中心。それなりに動きあり(第一花き)。栃木県産が主。岩手県産始まる。高値は無いが、堅調な販売(世田谷)。		
	見通し	大田花き	東京盆の納めが8日(水)～10日(金)がピークとなる。中旬やや落ち着いた取引となるが、下旬より一部8月盆に向けての早期納品がスタートする見込み。	
		FAJ	岩手・秋田・栃木・長野などより入荷予定。出荷数量は昨年並み程度が見込まれる。	
		第一花き	栃木及び岩手・秋田・山形など、早い物が出始める。	
		世田谷花き	山形・長野県産始まる。東京盆に向けて動く。	
		東日本板橋花き		
		東京フラワーポート		